


回線自動切替装置

FT-103-NX

取扱説明書

富士通コンポーネント株式会社

The Fujitsu logo, consisting of the word "FUJITSU" in a bold, sans-serif font, with a stylized infinity symbol above the "I".



安全にお使いいただくために必ずお読みください

このたびは、回線自動切替装置 FT-103-NX をご購入いただき、誠にありがとうございます。




ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、内容を理解してからお使いください。

本書では、使用者および周囲の方の身体や財産に損害を与えないための警告表示をしています。警告表示は、警告レベルの記号と警告文から構成しています。

以下に、警告レベルの記号を示し、その意味を説明します。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

 警告	この表示は、正しく使用しない場合、人が死亡する、または重症を負う恐れがあることを示しています。
 注意	この表示は、正しく使用しない場合、軽傷、または中程度の傷害を負うことがあり得ることと、本装置自身またはその他の使用者などの財産に損害が生じる危険性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使用しています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為(禁止行為)であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。

本書中の、その他の記号の意味は次の様になっています。

お願い	この表示を無視して、誤った使い方をすると、本装置の性能を発揮できなかつたり、機能停止を招く内容を示しています。必ず守っていただきたい内容を示しています。
ご注意	この表示は、本装置を取り扱う上での注意事項を示しています。
Point	この表示は、本装置を取り扱ううえで知っておくと便利な内容を示しています。
(⇒P〇〇)	参照するページを示しています。

ご注意

●本製品の取り扱いについて

本製品として提供される取扱説明書（本書）、装置本体は、お客様の責任でご利用ください。本製品の使用によって発生する損失やデータの損失については、富士通コンポーネント株式会社は、一切責任を負いかねます。また、本製品の障害の保証範囲は、どのような場合でも、本製品の代金としてお支払いいただいた金額を超えることはありません。あらかじめご了承ください。

●電波障害自主規制について

対象型格： FT-103-NX

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づく、クラスB情報処理装置です。この装置を家庭環境で使用すると、電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には、使用者が適切な対策を講じるよう要求されることがあります。

●本装置は、NTTのアナログ電話回線用の端末機器です。PBX等の内線に接続した場合、正常に動作しない場合があります。

●ビジネスホンやホームテレホンの4線式の内線側には、接続できません。

●内線側に接続する端末機器（電話機等）によっては、正常に動作しない場合があります。

●NTTのレンタル電話機が不要となる場合は、局番なしの116番（通話料金無料）へご連絡ください。

●本説明書は、本製品とともに大切に保管してください。
本製品を第三者に譲渡する場合は、本説明書も譲渡してください。

●本説明書の内容の一部または全部を無断に転載することを禁止します。

●本製品、および、本説明書の内容は、将来、予告なしに変更することがあります。

使用中の取り扱いについて

警告

ハイセイフティ用途



本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、(1) 原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御などの、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途ならびに(2) 海底中継器、宇宙衛星など、極めて高度な信頼性が要求される用途(以下「ハイセイフティ用途」という)に使用されるよう設計・製造されたものではありません。

お客様は当該ハイセイフティ用途に要する安全性ならびに信頼性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。また、お客様がハイセイフティ用と本製品を使用したことにより発生する、お客様又は第三者からの如何なる請求又は損害賠償に対しても、富士通コンポーネント株式会社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

感電、火災



開口部から本装置内部に金属類を差し込んだり、落としたりしないでください。火災・感電・故障の原因になります。

水ぬれ



本装置に水をかけたり、濡らしたりしないでください。感電・火災の原因となります。

水場での使用



風呂場、シャワー室などの水場で使用しないでください。感電・火災の原因となります。

悪環境での使用



本装置の上や近くに、花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または、小さな金属物を置かないでください。装置内に入った場合、火災・感電・故障の原因になります。

電源プラグ抜去



万一、本装置から発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生した場合は、ただちに、電源プラグをコンセントから抜いてください。感電・火災の原因となります。

使用中の取り扱いについて

警告

電源プラグ抜去



万一、装置内部に水などの異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いて、販売窓口までご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。

電源プラグ抜去



万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、電源プラグをコンセントから抜いて、販売窓口までご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。

電源プラグ抜去



近くで雷が発生した時は、電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、落雷等による直接・間接的な影響により装置が破壊され、感電・火災の原因となります。

感電



装置のカバーを開けないでください。特に、通電中にカバーを開けますと、内部には高電圧部があり、感電の原因となります。

使用中の取り扱いについて

注意

火災



本装置を、布でおおったり、包んだりしないでください。熱がこもり、火災の原因になることがあります。

火災



本装置の開口部（通気孔など）をふさがないでください。通気孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

衝撃、振動



本装置に過度の衝撃や振動を与えないでください。感電・火災・故障の原因となることがあります。

国内仕様



本装置は、日本国内仕様です。本装置を日本国外で使用された場合、弊社は、一切の責任を負いかねます。また、弊社は、本装置に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。

設置・据付について

警告



感電

アクセサリの取り付けおよび取り外しを行う場合は、必ず、電源コードをコンセントから抜いた状態で行ってください。感電の原因となります。



感電・火災

本装置を移動させる場合は、電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続線はずしたことを確認の上、行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

注意

悪環境への設置



水、湿気、湯気、ほこり、油煙等の多い場所（調理台や加湿器のそばなど）に設置しないでください。感電・火災・故障などの原因になることがあります。

不安定な場所



ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

振動・衝撃



振動・衝撃の多い場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

専用箱での運搬



本装置を運搬する場合は、衝撃や振動を避けるため、購入時の箱か、同等の箱を使用してください。ただし、変形および破損等がある箱は、使用しないでください。本装置が故障する原因となることがあります。

結露



本装置を寒冷な環境から設置場所に移動すると、結露を生じることがあります。装置が完全に乾燥し、設置場所とほぼ同じ湿度になってから使用してください。すぐに使用すると、本装置が故障する原因となることがあります。

電源コードについて



ぬれ手



濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。 感電の原因となります。

火災



電源プラグとコンセントの接続部には、ホコリやゴミをためないでください。 その状態で長い間使用して湿気をおびると、接続部が熱をもって発火にいたる「トラッキング」をおこし、火災の原因になることがあります。

火災



電源コードを巻いたり、束ねたりしないでください。 その状態で使用すると電源コードが熱をもって発火し、火災の原因となります。

感電・火災



電源コードを傷つけたり、加工しないでください。 また、重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりして、電源コードを傷めないでください。 感電・火災の原因となります。

感電・火災



電源コードのコードやプラグが傷んだり、コンセントの差し込み口がゆるい状態では使用しないでください。 そのまま使用すると、感電・火災の原因になります。

感電・火災



指定された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。 また、タコ足配線をしないでください。 感電・火災・故障の原因となります。

⚠ 注意

感電・火災



電源コードのプラグをコンセントから抜くときは、電源コードを引っ張らずに、必ず電源コードのプラグを持って抜いてください。電源コードを引っ張ると、コードの芯線が露出したり、断線したりして、感電・火災の原因となることがあります。

火災



電源コードのコンセント差し込みプラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。プラグとコンセントの接触不良により、火災・故障の原因となることがあります。

火災



長時間、装置を使用しないときには、安全のため、必ず、電源コードをコンセントから抜いてください。火災・故障の原因となることがあります。

感電・火災



電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

保守について

警告

お客様自身の修理



本装置の修理は、お客様自身で行わないでください。 火災・感電の原因となります。 弊社にご連絡の上、弊社の担当保守員によるメンテナンスを受けてください。

分解・改造



本装置を分解・改造しないでください。 火災・感電の原因となります。 また、本装置の中古品をオーバーホールなどによって再生して使用しないでください。 使用者や周囲の方の身体や財産に予期しない損害が生じるおそれがあります。

注意

装置内の取り扱い



静電気に対し、誤動作や故障を起こす場合があります。 保守担当者以外は内部に触れないでください。

廃棄



本装置は、金属、プラスチック部品を使用しています。 廃棄するときは、各自治体の指示にしたがってください。

目 次

安全にお使いいただくために必ずお読みください	2
1. はじめに	12
2. 梱包品の確認	12
3. 各部の名前	13
4. 接続	14
5. 自動モードでの使い方	17
6. リモートモードでの使い方	18
7. ダイヤルインモードでの使い方	19
8. 電話／ファクス自動切り替え	20
9. 付加番号付発信機能（対向接続機能）	21
10. その他の使い方	22
10. 1 ナンバー・ディスプレイサービスを利用する	22
10. 2 電話の優先発信	23
10. 3 Fネットの無鳴動着信サービスを利用する	23
10. 4 着信転送	24
11. 設定用スイッチの設定	25
12. システムデータの登録	26
13. システムデータの確認	30
14. ランプによる状態表示	31
15. こんなときは	32
15. 1 停電したとき	32
15. 2 停電が復旧したとき	32
15. 3 困ったときのチェックポイント	32
16. 取付方法	34
17. ピンク電話機の異常動作	35
仕様	36
保証規定	37
保証書	38

1. はじめに

このたびは、回線自動切替装置 FT-103-NXをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ございます。

本装置は、外線1回線、内線3回線を接続できる、電話回線の自動切替装置です。

発信側から送信される内線指定信号（PB信号）や、ファクスの信号（CNG信号）により、
指定の内線（電話機、ファクス等）に、自動的に接続します。

NTTのナンバー・ディスプレイサービスを利用でき、内線2番には、ナンバー・ディスプレ
イ対応電話機を接続できます。

NTTのモデムダイヤルインサービスも利用できます。

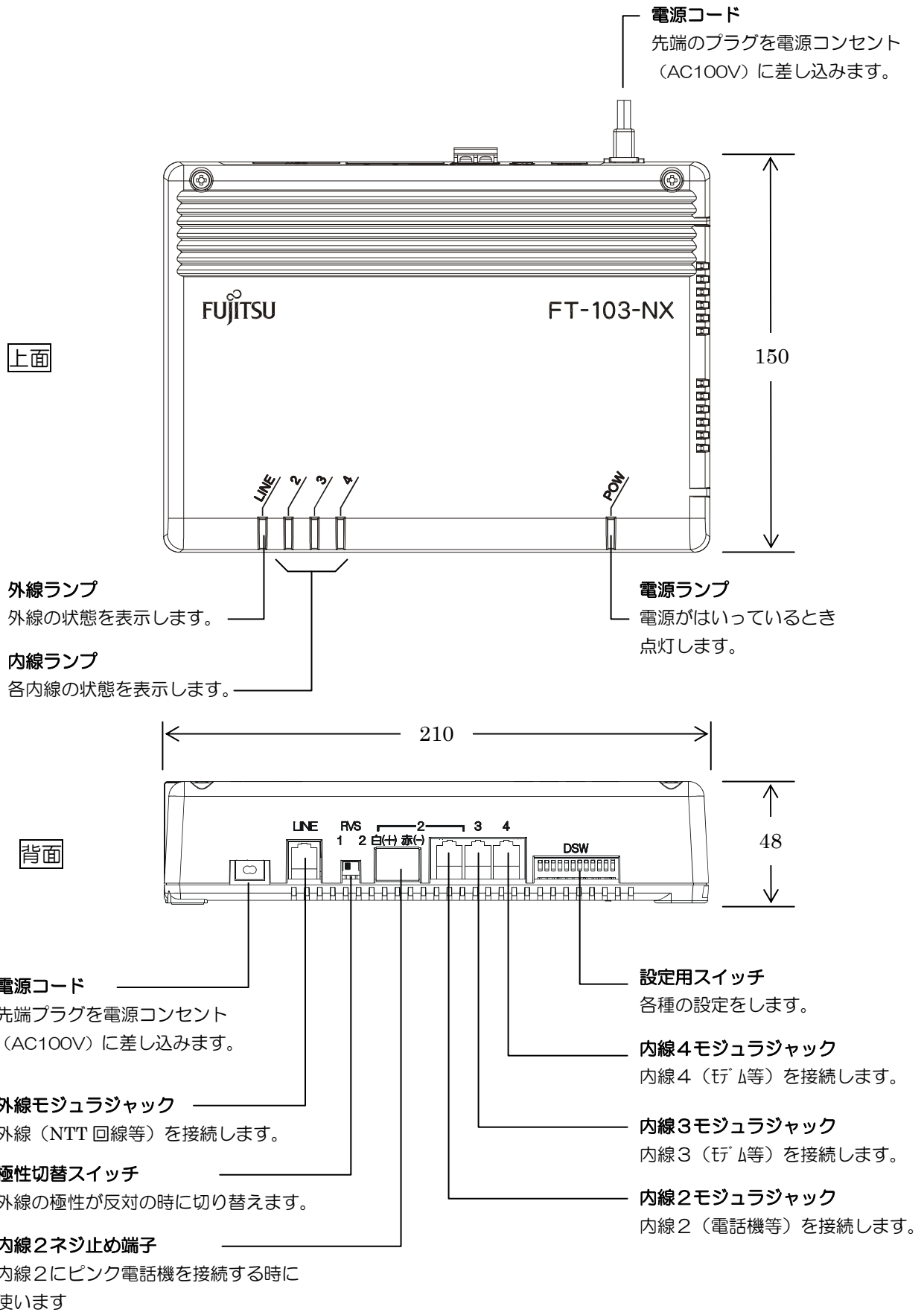
2. 梱包品の確認

箱を開けたら、次のものがそろっているか確認してください。

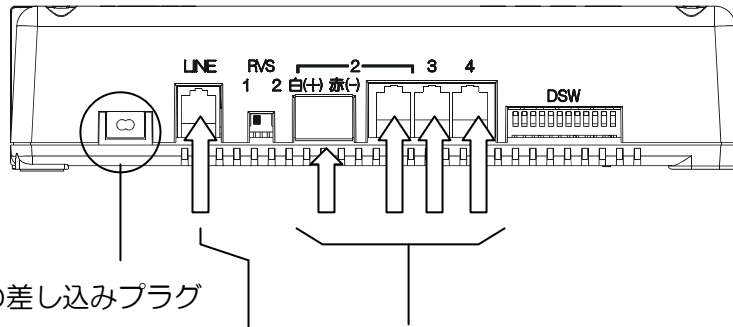
●本体（FT-103-NX）	1台
●モジュラーコード（3m）	1本
●壁掛け用木ネジ	2本
●取扱説明書（本書）	1冊

足りないものがあったり、取扱説明書に乱丁、落丁があった場合は、お買い上げの販売店にご
連絡ください。

3. 各部の名前



4. 接続



③電源コードの差し込みプラグを、電源コンセント(AC100V)に接続します

②電話機、ファクス等を接続します。

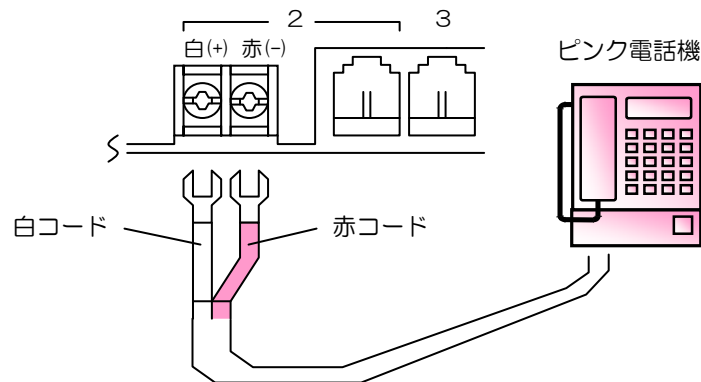
内線2は、ビュッザック止め端子の、どちらか一方を使用してください。

—接続例—

- 2 (内線2)：電話機、ピンク電話機、またはファクス
- 3 (内線3)：ファクスまたはモデム等
- 4 (内線4)：モデム等

①外線 (NTTの電話回線等) を接続します

ネジ止め端子にピンク電話機を接続する場合は、下図の様に、ピンク電話機の白色のコードを「白(+)」の端子に、赤色のコードを「赤(-)」の端子に接続してください。白と赤を反対に接続しますと、ピンク電話機は正常に動作しません。



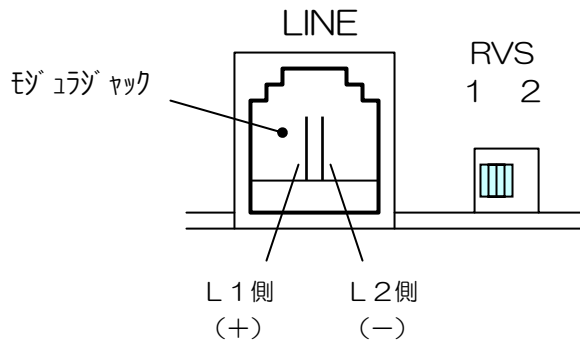
ご注意

- 本製品をPBXの内線等に接続した場合、正常に動作しないことがあります。
- 本製品に接続可能なピンク電話機の型名は、下記の通りです。下記以外のピンク電話機を接続する場合は、ご相談ください。

675S	675P	PT-12	P てれほん F
675A1	675P-VB	PT-4	P てれほん S
675A2	PT-1P	PT-3CLN	
675SA1	PT-1PN	P てれほん III	
675SA2	PT-2PW	PT-51	

お願い

- 外線（NTTの電話回線等）は、モジュラジャックのL1側がプラス、L2側がマイナスになるように接続してください。極性が逆の場合、置に接続したピンク電話機やナンバーディスプレイ端末等が正常に動作しません。

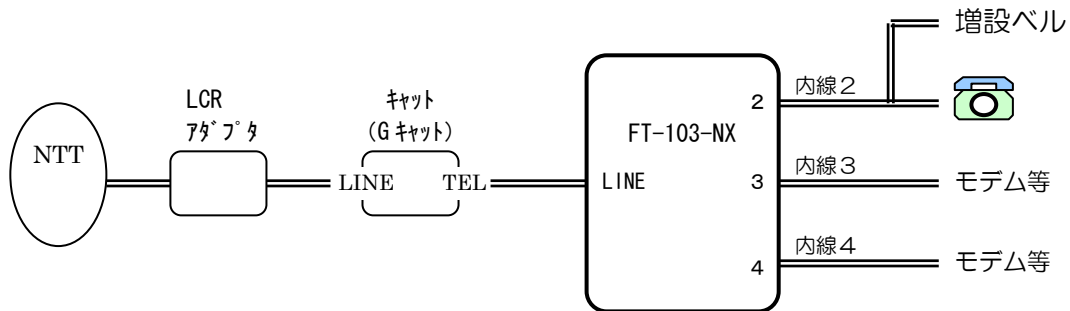


外線の極性は、次の方法で確認と修正ができます。なお、極性の確認は、待機中におこなってください。

《極性確認・修正方法》

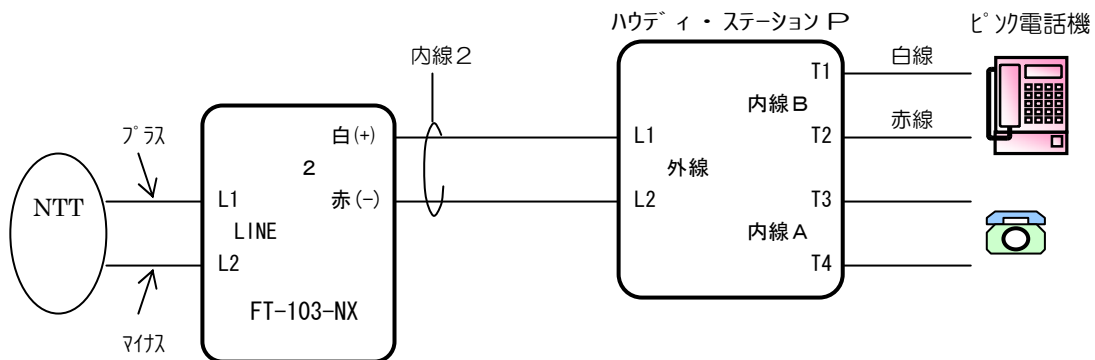
- ①外線を、モジュラジャック（LINE）に接続してください。
 - ②本装置の電源を入れてください。（POWランプが点灯します）
 - ③「LINE」ランプが点滅しなければ、極性は正常です。
 - ④「LINE」ランプが点滅する時は、極性が反対です。このときは、「RVS」スイッチを反対側に切り替えてください。
 - ⑤極性が正常になると、「LINE」ランプは消灯します。
- 内線に接続する電話機等のダイヤル種別（PB/DP）やダイヤル速度は、外線のダイヤル種別、ダイヤル速度と合わせてください。
 - 内線2のモジュラジャックとネジ止め端子は、本装置内で接続（並列接続）されています。電話機等は、どちらか一方に接続してください。両方に電話機等を接続すると、ベルが鳴らない等の不具合が発生する場合があります。
 - ピンク電話機は、モジュラー接続式ピンク電話機を除き、必ずネジ止め端子に接続してください。
 - ネジ止め端子へ接続する場合は、電話工事担任者の資格、または電話工事担任者の監督が必要です。お買い上げの販売店等にご相談ください。
 - モジュラー接続式ピンク電話機（PテレホンS）の場合、ピンク電話機のディスプレイ表示に「ガイセンセットイ ンコウ」と表示されたら、ピンク電話機の金庫カバー内部にある「外線設定スイッチ」を切り替えてください。詳しくは、ピンク電話機の取扱説明書でご確認ください。
 - NTT回線およびピンク電話機を接続したら、必ずピンク電話機の発信、着信の動作を確認してください。発信動作の確認は、硬貨を使用して（KSキーを使用せずに）おこない、硬貨が金庫に収納されることを確認してください。フリーダイヤル（0120）等の無料通話では、硬貨が収納されませんので、注意してください。

- 増設ベル、LCRアダプタ、キャット等は、接続する位置によって正常に動作しないことがあります。下図の位置に接続してください。



増設ベルを接続するとき、電話機を内線2のモジュラジャックに接続して、増設ベルをネジ止め端子に接続しても正常に動作します。

- ピンク電話切替装置（NTT/ハウディ・ステーションP）を接続する場合は、下図の位置に接続してください。



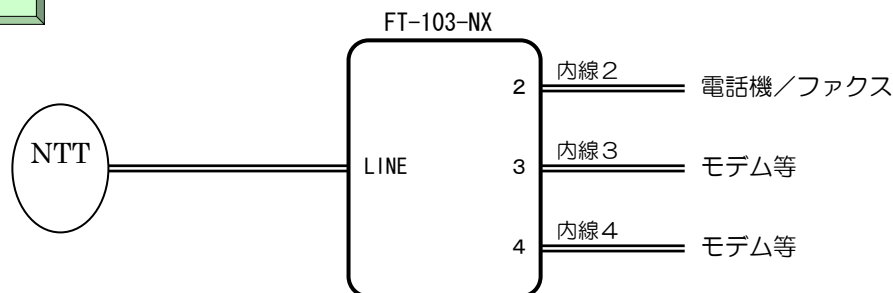
- 1) 本装置の外線をL1 プラスになるように接続します。
- 2) 本装置の内線2とハウディ・ステーションPの外線を接続します。このとき、本装置の白(+)端子をハウディ・ステーションPのL1端子に、本装置の赤(-)端子をハウディ・ステーションPのL2端子に接続してください。正しく接続しないと正常に動作しません。

- コードレスホンの主装置または親機を本装置の近くに設置しないでください。電話が繋がらなかったり、通話に雑音が入ったりすることがあります。

5. 自動モードでの使い方（自動切替機能）

外線着信した場合、本装置が自動応答して相手からのPB信号（内線のID番号）で指定の内線に着信します。
相手からのPB信号がないときには、約5秒後に内線2を呼び出します。

接続図



設定

- ・設定用スイッチの1と8を、OFFに設定します。（⇒P25）

使用方法

- ・電話、ファクスは必ず内線2に接続してください。電話をかけるときは、受話器を上げ、電話番号をダイヤルしてください。なお、他の内線が使用中の場合は、話中音（ツーツーツー）が聞こえて、電話をかけることはできません。
- ・電話/ファクス自動切替機能を利用する場合は、電話機を内線2、ファクスを内線3に接続し、設定用スイッチの2をONに設定します。（⇒P25）
- ・外線着信時、本装置が自動応答して、外の相手からのPB信号（内線のID番号）により、指定の内線（モデム等）に着信します。
- ・内線のID番号は登録により変更できます。（⇒P27 NO. 1）
- ・着信時に、内線を約1分呼び出しても応答しない場合は、回線を切断します。呼び出し時間は、登録により変更できます。（⇒P27 NO. 2）
- ・自動応答時の信号検出時間はスイッチ設定およびシステムデータ登録により変更できます。（⇒P25、27 NO. 3）

お願い

- 複数の内線に、同じID番号を登録しないでください。

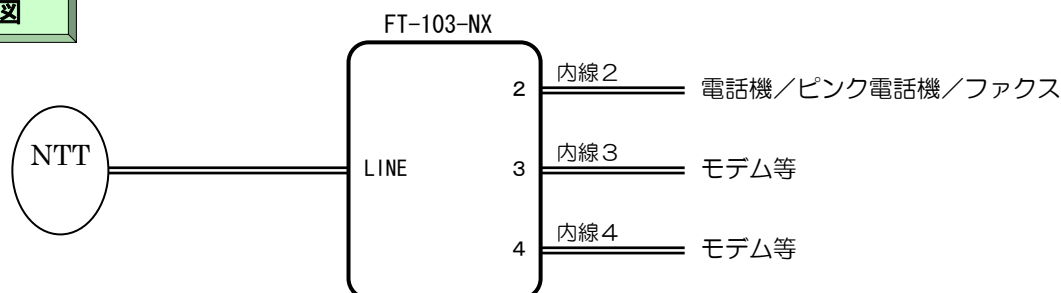
ご注意

- 着信時、本装置が自動応答した時点から相手側には通話料金がかかります。
- 本装置は、自動応答後、相手に呼出音（トルル- トルル-）を返します。

6. リモートモードでの使い方（電話着信優先機能）

外線着信した場合、本装置が自動応答しないで直接「内線2」に着信しますので、相手を待たせず、単独電話と同じように使用できます。
内線2が呼び出しに 응답せず、一定時間経過した場合、本装置が自動応答し、以後は、自動モードで動作します。

接続図



設定

- ・設定用スイッチの1をON、8をOFFに設定します。(⇒P 25)

使用方法

- ・電話、ファクスは必ず内線2に接続してください。電話をかけるときは、受話器を上げ、電話番号をダイヤルしてください。なお、他の内線が使用中の場合は、話中音（ツーツー）が聞こえて、電話をかけることはできません。
- ・電話/ファクス自動切替機能を利用する場合は、電話機を内線2、ファクスを内線3に接続し、設定用スイッチの2をONに設定します。(⇒P 25)
- ・着信時に、内線2を30秒間呼び出しても応答しない場合は、本装置が自動応答します。以後は「自動モード」で動作しますので、PB信号により指定の内線（モデム等）を呼び出すことができます。(⇒P 17)
- ・「リモートモード」から「自動モード」への切り替え時間「30秒」は登録により変更できます。(⇒P 27 NO. 4)

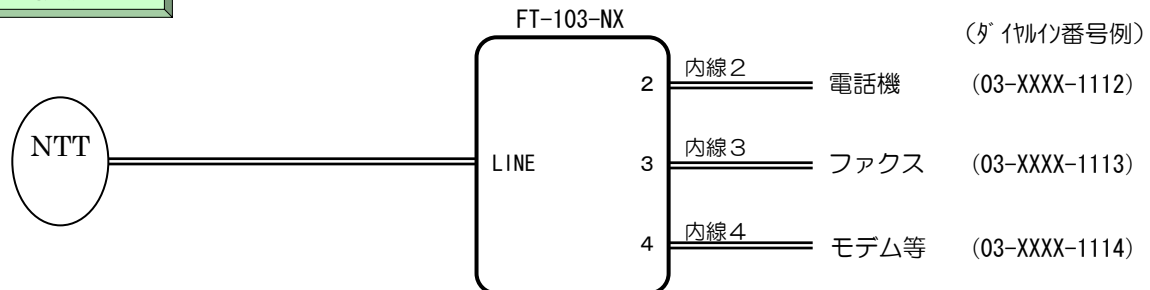
ご注意

- 「リモートモード」から「自動モード」に切り替わった場合、再びリモートモードに戻るのは、内線2が使用された（内線2の受話器を上げた）ときです。
- 着信時、本装置が自動応答した時点から相手側には通話料金がかかります。
- 本装置は、自動応答後、相手に呼出音（トゥルル トゥルル）を返します。

7. ダイヤルインモードでの使い方

NTTのダイヤルインサービスを利用できます。外からダイヤルイン番号をダイヤルすると、直接、特定の内線に電話をかけることができます。

接続図



設定

- ・設定用スイッチの8を、ONにします。(⇒P 25)
- ・システムデータで各内線のダイヤルイン番号（電話番号の下4桁）を登録します。(⇒P 27 NO. 1)

ご注意

- ダイヤルインサービスをご利用になるには、NTTとの利用契約が必要です。
- 停電時に外から電話がかかってきた時、ダイヤルイン着信では、正常に電話を受けることができません。
- ダイヤルインサービスをご利用になる場合は、同時に次のサービスとの利用契約はできません。
詳しくは、NTT窓口等へお問い合わせください。
 - ・迷惑電話おことわりサービス
 - ・トリオホン
 - ・ボイスワープ
 - ・マジックボックス
 - ・ピンク電話 など

お願い

- ダイヤルインサービスを申し込む時は、NTT窓口等へお問い合わせください。
- ダイヤルインサービスを申し込む時は、「モデム信号方式（モデムダイヤルイン）」を指定してください。（PB信号方式は、利用できません）
- 本装置に、各内線のダイヤルイン番号（電話番号の下4桁）を登録してください。(⇒P 27 NO. 1)

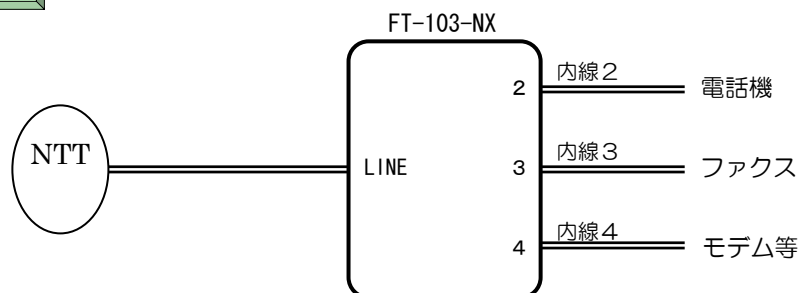
Point

- すべての内線にダイヤルイン番号を登録する必要はありません。登録されていないダイヤルイン番号に電話がかかってきた場合は、本装置が自動応答します。この場合は、外からの内線指定信号で、指定の内線に接続することができます。
- ナンバー・ディスプレイサービスと同時契約した場合は、内線2に接続したナンバー・ディスプレイ電話機に発信電話番号を表示することができます。
- ダイヤルインモードに設定した場合、設定用スイッチ1の設定（自動モード/リモートモード）は無効となります。電源ランプ（POW）は、橙色で点灯します。

8. 電話／ファクス自動切り替え

本装置は、相手ファクスから信号音（ポー ポー）を受信すると、自動的に内線のファクスを呼び出して接続します。

接続図



設定

- ・設定用スイッチの2を、ONにします。(⇒P 25)

使用方法

- ・ファクスからの着信は、本装置が自動応答し、相手ファクスからの信号音を検出すると、内線3（ファクス）を呼び出します。
- ・電話からの着信は、本装置が自動応答し約5秒後に内線2（電話機）を呼び出します。

お願い

- 電話機は内線2、ファクスは内線3に接続してください。

ご注意

- 相手ファクスのCNG信号の送信タイミングやレベルによっては、自動切り替えできない（電話機が呼び出される）ことがあります。また、相手ファクスがCNG信号を送信しない（手動送信等）場合は、自動切り替えできません。
- 自動切り替えできなかった場合は、内線2が呼び出されます。内線2の受話器を上げたときにファクスの信号音（ポー ポー）が聞こえるときは、下記の方法で、内線3（ファクス）へ手動転送してください。また、無音のときも、相手がファクスの可能性がありますので、呼びかけても応答がないことを確認し、下記の方法で手動転送してください。

〔内線2から内線3への転送方法〕

- ①内線2の電話機から転送番号「3#」をダイヤルします。
ダイヤル（DP）回線でお使いの場合は、「*」の後に、「3#」をダイヤルしてください。
- ②内線3のファクスが呼び出されます。外線は保留状態になり、電話機は話中音になります。
- ③ファクスが応答すると、相手ファクスとの通信状態になります。

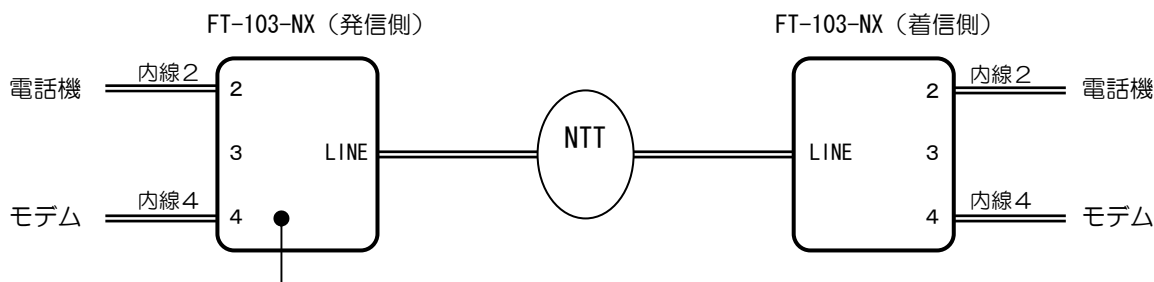
PBトーンが出ないタイプのDP（ダイヤルパルス式）電話機をお使いの場合、手動転送はできません。

9. 付加番号付発信機能（対向接続機能）

本装置を発信側と着信側の双方に設置して、内線の付加番号付発信機能を利用すると、発信側装置の内線3に接続したモデムから着信側の電話番号をダイヤルするだけで、着信側装置の内線3に自動的に接続します。同様に、内線4から発信した場合も、着信側の内線4に接続することができます。

付加番号付発信機能には、モードAとモードBがあります。

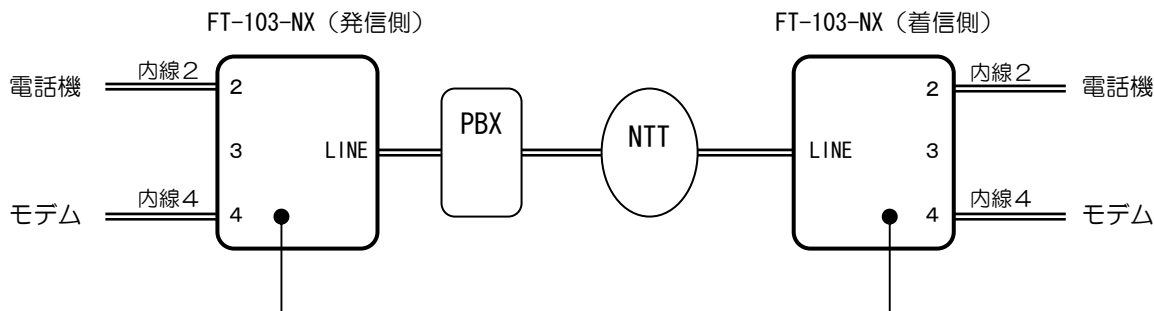
接続図



外線がNTT回線の場合は、
内線の付加番号付発信を
「モードA」に設定します。
(内線4の場合の登録番号：041)

お願い

- 外線が、NTT回線の場合は、内線の付加番号付発信を「モードA」に設定してください。
この設定は、内線毎に設定してください。(⇒P26、P29 NO. 18、20、22)
- 外線がPBXの内線等で、相手応答時に回線の極性が反転しない場合は、内線の付加番号付発信を「モードB」に設定してください。また、着信側の装置では、着信時の応答信号の送出を「あり」に設定してください。
これらの設定は、内線毎に設定してください。(下図参照)
(⇒P26、P29 NO. 18 ~ 23)



内線の付加番号付発信を
「モードB」に設定します。
(内線4の場合の登録番号：042)

内線の着信時の応答信号の送出を
「あり」に設定します。
(内線4の場合の登録番号：341)

ご注意

- 接続するPBXによっては、指定の内線に接続できない場合があります。
- 付加番号付発信機能を使うと、発信した内線のID番号を、本装置が自動的に送信します。着信側装置はID番号を受信して、同一のID番号の内線呼び出しします。したがって、接続する双方の内線は、ID番号が同一である必要があります。(⇒P27 NO. 1)

10. その他の使い方

10.1 ナンバー・ディスプレイサービスを利用する

内線2にナンバー・ディスプレイ対応電話機を接続でき、NTTのナンバー・ディスプレイサービスを受けることができます。
ナンバー・ディスプレイサービスとは、電話をかけた方の電話番号などがナンバー・ディスプレイ対応電話機に表示されるサービスです。

設定

設定用スイッチの7をONに設定してください。(⇒P25)

使用方法

- ・ご使用になるナンバー・ディスプレイ対応電話機の取扱説明書をよくお読みになり、ナンバー・ディスプレイサービスをご利用ください。

ご注意

- ナンバー・ディスプレイサービスをご利用になるには、NTTとの利用契約が必要です。
- ナンバー・ディスプレイサービスをご利用になるには、ナンバー・ディスプレイ対応電話機が必要です。
- ナンバー・ディスプレイ対応電話機を利用した場合、通常の電話機を使用した場合に比べて、ベルが鳴り始めるのが遅くなります。

お願い

- ナンバー・ディスプレイ対応電話機は、内線2に接続してください。
他の内線に接続した場合、発信電話番号等を表示することはできません。

10.2 電話の優先発信

内線2は、他の内線の通話を強制切断して、発信することができます。緊急時等に便利です。

設定

- ・設定用スイッチの4をONにしてください。(⇒P25)

使用方法

- ・内線2の受話器を上げます（他の内線が外線使用中の場合、その通話は強制切断されます）。
- ・「ツー」という発信音が聞こえてからダイヤルしてください。
（受話器を上げてから、約3～7秒かかります）

ご注意

- PBX内線、ターミナルアダプタのアナログポート等に接続している場合は、正常に優先発信ができない場合があります。
- 優先発信する場合は、発信音を確認してからダイヤルするようにしてください。特に、ファクス等で自動ダイヤル機能をお使いの場合は、注意してください。

10.3 Fネットの無鳴動着信サービスを利用する

NTTのFネット（ファクシミリ専用網サービス）で、無鳴動着信が利用できます。

設定

- ・設定用スイッチの3をONにしてください。(⇒P25)

使用方法

- ・Fネットからの無鳴動着信があると、自動的に内線のファクスと接続します。

お願い

- 設定用スイッチで、ファクス自動切り替えを「する」に設定している場合は、内線3にファクスを接続してください。

ご注意

- 内線に接続するファクスも、Fネットの無鳴動着信サービスに対応している必要があります。

10.4 着信転送

外からの電話を、他の内線に転送することができます。

設定

- ・システムデータで、「着信転送機能」を「あり」に設定してください。(⇒P28 NO. 7)

使用方法

- ①着信通話中、転送番号をダイヤルします。転送番号は、次の通りです。

内線2へ転送する場合：2#

内線3へ転送する場合：3#

内線4へ転送する場合：4#

- ②転送先が呼び出され、操作した内線は話中音になります。

(外線には呼出音を送出されます)

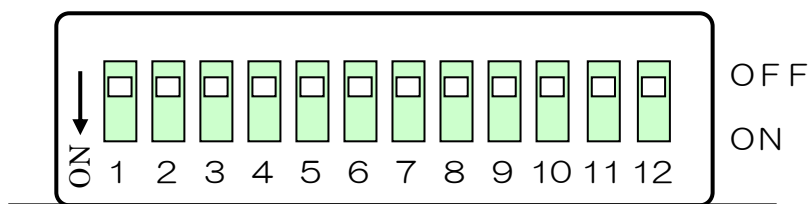
- ③転送先の応答により、外線との通話になります。

(30秒経過しても応答しないと、切断します)

ご注意

- DP (ダイヤル) 回線でお使いの場合は、「*」をダイヤルした後、転送番号をダイヤルしてください。
PBトーンが出ないタイプのDP (ダイヤルパルス式) 電話機をお使いの場合、転送はできません。
- 留守番電話機等のリモート操作で、2#、3#、4#を使用する場合には、転送番号をシステムデータで変更してください。(⇒P28 NO. 8)
変更しないで使用すると、留守番電話機のリモート操作時に転送になってしまい、リモート操作が正常にできません。

1 1. 設定用スイッチの設定



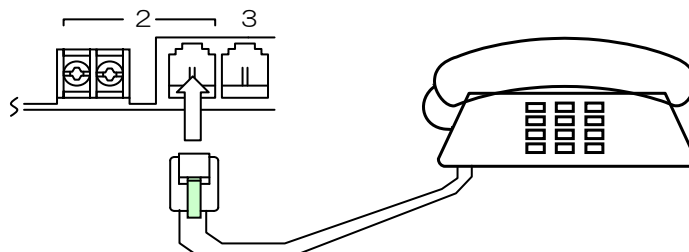
注. 工場出荷時は、すべてOFF側に設定されています

NO.	機能	スイッチの設定
1	着信モード (⇒P 17、18)	自動モード <input type="checkbox"/> 待機モード <input checked="" type="checkbox"/>
2	ファクス自動切り替え (⇒P 20)	しない <input type="checkbox"/> する <input checked="" type="checkbox"/>
3	Fネットの無鳴動着信サービスの利用 (⇒P 23)	しない <input type="checkbox"/> する <input checked="" type="checkbox"/>
4	電話の優先発信 (⇒P 23)	しない <input type="checkbox"/> する <input checked="" type="checkbox"/>
5	必ず、OFF側に設定してください	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>
6	自動応答時の信号検出時間 (⇒P 17)	5秒 <input type="checkbox"/> 3秒 <input checked="" type="checkbox"/>
7	ナンバー・ディスプレイサービスの利用 (⇒P 22)	しない <input type="checkbox"/> する <input checked="" type="checkbox"/>
8	ダイヤルインモードの設定 (⇒P 19) このスイッチをONした場合、スイッチ1の設定は、無効になります。	しない <input type="checkbox"/> する <input checked="" type="checkbox"/>
9	必ず、OFF側に設定してください	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>
10	システムデータの登録 (⇒P 26、27)	する <input type="checkbox"/> しない <input checked="" type="checkbox"/>
11	必ず、OFF側に設定してください	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>
12	必ず、OFF側に設定してください	<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>

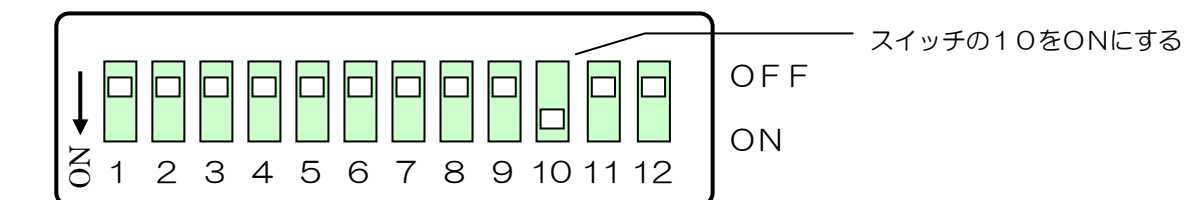
12. システムデータの登録

準備

- ①お手持ちのPB（押しボタン式）電話機を、内線2に接続してください。



- ②設定用スイッチの10をONに設定してください。（⇒P 21）



登録方法

- ①内線2に接続した電話機の受話器を上げます。
⇒ 「プッー プッー ……」という音が聞こえます。
- ②登録番号をダイヤルします。
⇒ 登録されると、「ププププ」いう確認音が聞こえたあと、「プッー プッー ……」という音に変わります。
- ③受話器をおろします。

お願い

- 電話機は、PB（押しボタン式）電話機をお使いください。
PBトーンの出ない、DP（ダイヤルパルス式）電話機では、登録できません。
- 登録後は、設定用スイッチの10を必ずOFFに戻してください。

ご注意

- 設定用スイッチの10をONにすると、LINE、内線2～4ランプが遅い点滅になります。
- 登録番号をダイヤルした後、「プー プー ……」という話中音になったときは、登録されていないので初めから登録をやりなおしてください。
- 複数の項目を連続して登録することができます。
「ププププ」いう確認音が聞こえたあと「プッー プッー ……」という音が聞こえたら、次の項目の登録番号をダイヤルしてください。すべての登録が終わったら、受話器をおろしてください。
- 本装置は、電源が切れても、システムデータを保持（不揮発性メモリに保存）しています。
- 登録番号として「*#」または「9900」をダイヤルすれば、システムデータを初期化できます。
（⇒P 29 NO. 25）

システムデータ一覧表

注. は初期値です。

NO.	機能名	登録内容	登録番号	点灯ラツプ°	注意事項
1	内線のID番号 内線のダイヤルイン番号 (⇒P17、19、21)	任意の ID番号 または ダイヤル番号	9 +内線番号 +ID番号 例) 内線4の ID番号を 「14」に 設定する場 合は 9414 とダイヤル します。	LINE+2	ID番号は1～4桁で 任意に登録できます。 ただし 「#」記号は最初また は最後の桁に使用して ください。 「#」が最初の桁の時 は3桁まで登録してく ださい。 例) #22 #12
		内線2:2# 内線3:3# 内線4:4#	910	LINE	
		内線2:#22 内線3:#33 内線4:#44	911	2	
		内線2:02# 内線3:03# 内線4:04#	912	3	
		内線2:#00 内線3:#99 内線4:#77	913	4	
		確認	919		
2	自動応答時の内線呼出時間 (⇒P17)	30秒	71	2	
		45秒	72	3	
		60秒	73	LINE	
		90秒	74	4	
		120秒	75	LINE+2	
		256秒	76	LINE+3	
		確認	79		
		3	自動応答時の信号検出時間 (⇒P17)	スイッチ選択	
7秒	41			2	
10秒	42			3	
15秒	43			4	
20秒	44			LINE+2	
25秒	45			LINE+3	
確認	49				
4	リモートモードから 自動モードへの切替時間 (⇒P18)	切替なし	60	2	
		15秒	61	3	
		21秒	62	4	
		30秒	63	LINE	
		45秒	64	LINE+2	
		60秒	65	LINE+3	
		90秒	66	LINE+4	
		2分	67	LINE+2+3	
		確認	69		

NO.	機能名	登録内容	登録番号	点灯ラフ°	注意事項
5	オンフック転送時間	なし 5秒 10秒 15秒 20秒 25秒 確認	570 571 572 573 574 575 579	LINE 2 3 4 LINE+2 LINE+3	特に指定がない時は、 20秒を登録してくだ さい。
6	不応答転送時間	なし 15秒 21秒 30秒 45秒 60秒 確認	560 561 562 563 564 565 569	LINE 2 3 4 LINE+2 LINE+3	特に指定がない時は、 21秒を登録してくだ さい。
7	着信転送機能 (⇒P24)	なし あり 確認	900 901 909	LINE 2	
8	転送番号 (⇒P24)	2#~4# 2*~4* 確認	951 952 959	LINE 2	
9	リートモード時の「自動からリート モード」への解除方法	内線発着信 常に解除 確認	511 512 519	LINE 2	特殊登録ですので、特 に指定がない限りは変 更しないでください。
10	発信転送機能	なし あり 確認	960 961 969	LINE 2	機能の詳細については 販売元等にお問い合わせ ください。
11	内線指定信号の桁間タイミン グ	0.3秒 0.5秒 1秒 2秒 3秒 5秒 確認	981 982 983 984 985 986 989	2 LINE 3 4 LINE+2 LINE+3	
12	信号検出時間中のRBT送出 の有無	なし あり 確認	810 811 819	2 LINE	
13	ファクス内線呼出中のRBT 送出の有無	なし あり 確認	530 531 539	LINE 2	
14	欠番				
15	外線へのPB信号送出時間	100ms 200ms 300ms 1.5秒 2.1秒 確認	841 842 843 844 845 849	LINE 2 3 4 LINE+2	

NO.	機能名	登録内容	登録番号	点灯ラフ°	注意事項
16	内線端末の切断監視時間	1. 5秒 0. 1秒 確認	801 802 809	LINE 2	
17	外線着信検出から自動応答までの時間	0. 5秒 0. 8秒 1. 0秒 1. 2秒 1. 5秒 2. 0秒 3. 0秒 確認	871 872 873 874 875 876 877 879	2 3 LINE 4 LINE+2 LINE+3 LINE+4	
18	内線2の付加番号付発信	なし Aモード Bモード 確認	020 021 022 029	LINE 2 3	
19	内線2の着信時の応答信号の送出	なし あり 確認	320 321 329	LINE 2	付加番号付発信Bの着信側装置に登録します。
20	内線3の付加番号付発信	なし Aモード Bモード 確認	030 031 032 039	LINE 2 3	
21	内線3の着信時の応答信号の送出	なし あり 確認	330 331 339	LINE 2	付加番号付発信Bの着信側装置に登録します。
22	内線4の付加番号付発信	なし Aモード Bモード 確認	040 041 042 049	LINE 2 3	
23	内線4の着信時の応答信号の送出	なし あり 確認	340 341 349	LINE 2	付加番号付発信Bの着信側装置に登録します。
25	ダイヤル桁間タイミングの変更	3秒 4. 5秒 6秒 8秒 10秒 12秒 確認	971 972 973 974 975 976 979	2 LINE 3 4 LINE+2 LINE+3	付加番号付発信Bの時のダイヤル終了からPB送出までのタイミング
25	全データの初期値化	全データを初期値にする	*# または 9900	回線ラフ°が 全て点灯	

13. システムデータの確認

システムデータの登録内容の確認

システムデータの登録内容を、項目毎に、ランプ表示で確認できます。

準備

内線2に電話機を接続し、設定用スイッチの10をONにします。(⇒P26)

確認方法

- ①内線2に接続した電話機の受話器を上げます。
(「プッー プッー ……」という音が聞こえます)
- ②システムデータの各項目の確認番号をダイヤルします。
(登録内容が、LINEランプおよび内線2～4ランプに表示されます)
- ③受話器をおろします。

例) 10秒に登録された「自動応答時の信号検出時間」を確認する場合

準備 内線2に電話機を接続し、設定用スイッチの10をONにします。

- ① 内線2に接続した電話機の受話器を上げます。
- ② 「49」をダイヤルします。(⇒P27 NO. 3)
- ③ 内線ランプの「3」が点灯します。
(信号検出時間が「10秒」に登録されていることを表示します)

ご注意

- 確認番号とランプ表示の内容は、システムデータ一覧表(⇒P27～29)を参照してください。
- 任意登録したID番号の確認はできません。ただし、変更したかどうかの確認はできます。(⇒P27)
- システムデータ登録時にも、登録内容がランプ表示されます。
- システムデータを初期値化したときは、LINEランプおよび内線2～4ランプが全て点灯します。

14. ランプによる状態表示

ランプ表示により、本装置の動作状態がわかります。
また、外線（NTT回線）の極性を、ランプ表示で確認できます。

LINEランプ

（外線ランプ）

外線の状態	ランプ表示（橙色）
待機中、外線未接続	消灯
外線着信中	早い点滅（1秒間に4回の点滅）
自動応答中	遅い点滅（2秒間に1回の点滅）
通話中	点灯
外線の極性逆 （L1マイナスの場合）	特殊点滅 （RVSスイッチを切り替えることにより消灯します）

2～4ランプ

（内線ランプ）

内線の状態	ランプ表示（橙色）
待機中	消灯
内線着信中	早い点滅（1秒間に4回の点滅）
ダイヤル中、通話中	点灯
話中音聴取中、受話器外し	遅い点滅（2秒間に1回の点滅）

POWランプ

（電源ランプ）

電源コードをAC100Vのコンセントに接続すると点灯します。
通常は、緑色で点灯します。ダイヤルインモードの時は、橙色で点灯します。

ご注意

- Fネットの無鳴動着信中は、LINEランプと内線2ランプが早い点滅をします。ファクスが応答する（通話状態になる）と、点灯状態になります。
- 設定用スイッチの10をON（システムデータ登録モード）にしたときは、LINEランプと内線2～4ランプが遅い点滅をします。

15. こんなときは

15.1 停電したとき

- ・停電したときは、内線2が直通になりますので内線2の電話機から電話を受けたりかけたり出来ます。他の内線は使えません。
- ・ダイヤルインサービスをご利用の場合は、外へかけることは出来ますが電話を受けることはできません。
- ・外と内線3か4が通話中、停電が発生した場合は、通話は切れます。
- ・停電が発生しても登録したシステムデータは消えません。

15.2 停電が復旧したとき

- ・停電が復旧すると本装置は自動的に使えるようになります。

15.3 困ったときのチェックポイント

症 状	確認項目
電源を入れると、LINE ランプが点滅する。	外線の極性が逆です。極性を入れ替えるか、「RVS」スイッチを切り替えてください。(⇒P 15)
ピンク電話に硬貨を入れても、何も聞こえず発信できない。	外線の極性を入れ替えるか、「RVS」スイッチを切り替えてみてください。(⇒P 15) ネジ止め端子の接続が正しいか確認してください。ピンク電話機の白色のコードは白(+)側、赤色のコードは赤(-)側に接続してください。(⇒P 14)
コードレスの電話機の LCD 表示に「バ ヲオマツク サイ」と表示されて、発信ができない。	外線の極性が逆か、またはピンク電話機の配線(赤と白)が逆です。配線を入れ替えてみてください。(⇒P 14、15、35)
ファクスの着信はできるが、発信ができない。	外線の極性は正しい(L1 プラス、L2 マイナス)ですか？ 極性を入れ替えるか、「RVS」スイッチを切り替えてみてください。(⇒P 15)
ファクスの発信はできるが、着信ができない。	ファクスを内線何番に接続していますか？ 「ファクス自動切り替え」機能を使用しないときは、ファクスを、内線2に接続してください。 「ファクス自動切り替え」機能を使用するときは、ファクスを、内線3に接続してください。(⇒P 20)
電話機、ファクス等の発信ができない。	他の内線のモデム等が通信中ではありませんか？ (その場合は、話中音が聞こえます)
発信・着信ができない。	設定用スイッチの10がONになっていませんか？ (LINE ランプ、2~4ランプが点滅していませんか？) システムデータ登録中は、発着信できません。 システムデータ登録後は、設定用スイッチの10を、必ずOFFに戻してください。
内線2しか使えない。	電源コードが抜けていませんか？ (POWランプが消えていませんか)

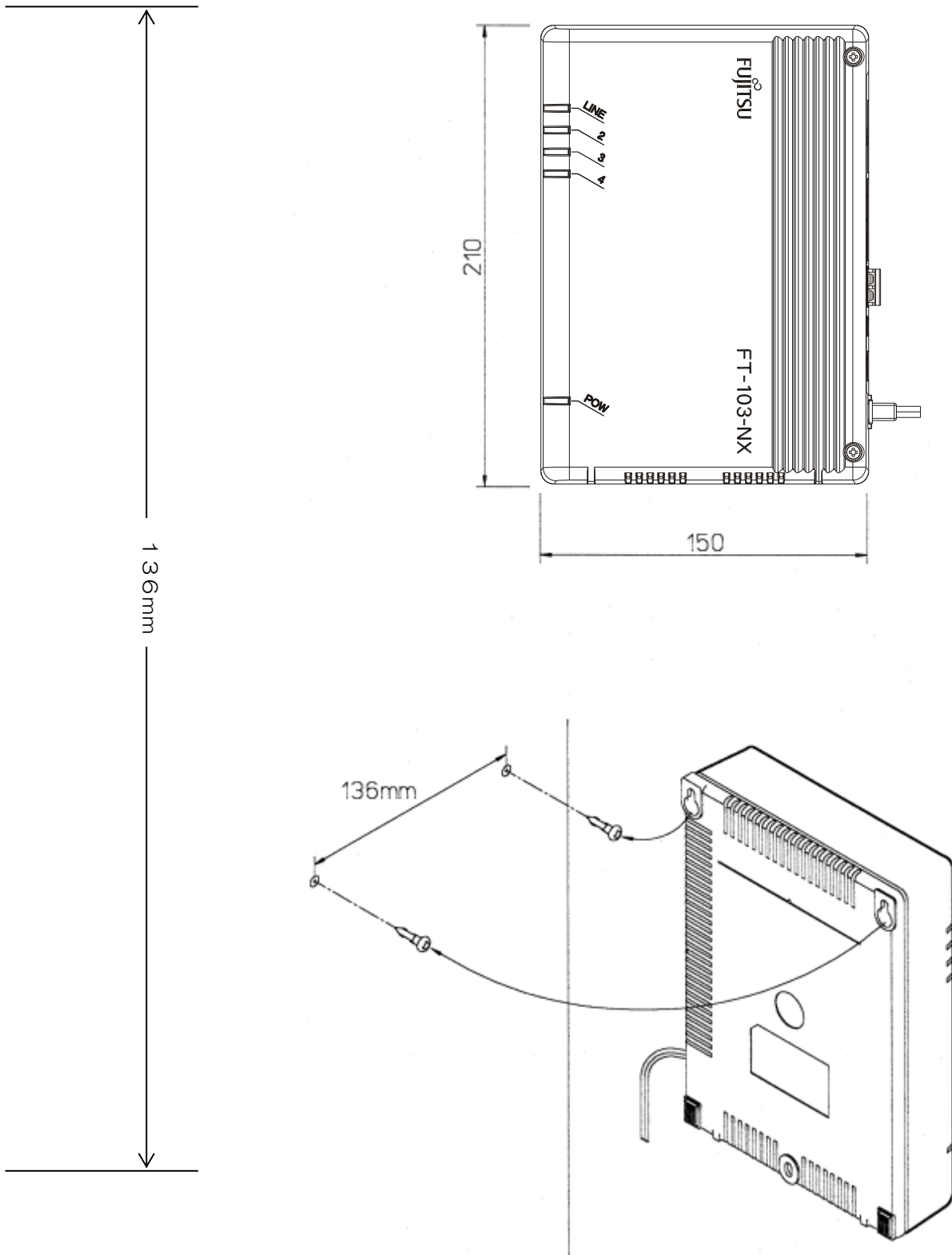
症 状	確認項目
停電時に使用できない。	内線何番を使っていますか？ 停電時は、内線2番しか使えません。
増設ベルが1～2回で止まってしまふ	増設ベルを、どこに接続していますか？ 増設ベルは、内線2の電話機と並列に接続してください。 (⇒P16)
モデム通信がときどきエラーになる	キャッチホンサービスをご利用になっていますか？ キャッチホンサービスをご利用になりますと、モデム通信中に他からの着信でキャッチホン信号が入り、モデム通信エラーになります。 キャッチホン信号が消せる「キャッチホンⅡ」をご利用ください。詳しくはお近くのNTT窓口にお問い合わせください。
着信テストのとき、指定の内線に着信しない。 (外から電話して、内線のID番号を手動で送っても、指定の内線に着信しない)	内線のID番号(4#、04#等)の送出はすばやくおこなってください。 (例) 4#を送出する場合 4と#の送出間隔は、0.5秒以内にしてください。 0.5秒以上になると正しく切り替わりません。 0.5秒の時間を長くしたい時は、システムデータ「内線指定信号の桁間タイミング」を変更してください。 (⇒P28 NO11)

16. 取付方法

卓上設置と壁掛け設置の2通りの方法があります。

壁掛け設置の場合には、添付の木ネジを壁に取り付け、本装置を木ネジに引っ掛けてください。

(下図参照)



17. ピンク電話機の異常動作

主なピンク電話機の誤配線と異常動作の関係

配線状態 ピンク 電話機	ピンク電話機側逆		外線側逆		外線、ピンク電話両方逆	
	外線	内線2	外線	内線2	外線	内線2
	L1+ L2-	赤(-)に白コード 白(+)に赤コード	L1- L2+	赤(-)に赤コード 白(+)に白コード	L1- L2+	赤(-)に白コード 白(+)に赤コード
プッシュ式 ピンク電話機 (675P-VB)	着信：無音で通話不可 発信：硬貨投入しても 無音で不可。		着信：無音で通話不可 発信：硬貨投入しても 無音で不可。		着信：通話不可 発信：硬貨投入しても 無音で不可。	
Pてれほん (PT-1P)	着信：無音で通話不可 発信：硬貨投入しても 無音で不可		着信：無音で通話不可 発信：硬貨投入しても 無音で不可		着信：通話可能 発信：通話可能	
コードレス Pてれほん (PT-3CLN)	着信：無音で通話不可 相手は、電話が 切れる。 LCD表示 「カハテマヤシ」 発信：受話器を上げて も硬貨投入口は 塞がったままで 発信不可 LCD表示 「カハテマヤシ」		着信：話中音で通話不可 相手は、電話が 切れる。 発信：硬貨投入しても 話中音で不可。 LCD表示 「カハテマヤシ」 その後 「カハテマヤシ」 と表示されるが、話中 音が聞こえ発信不可。		着信：通話可能 発信：通常と異なるが 発信可能。 LCD表示 「カハテマヤシ」 で、発信音が聞こえ、 「カハテマヤシ」 硬貨投入で通話可能。	
子機	着信：無音で通話不可 発信：無音で警告音が 鳴る。		着信：無音で通話不可 発信：無音で警告音が 鳴る。		着信：通話可能 発信：通話可能	
PてれほんE (PT-4)	着信：無音で通話不可 相手は、電話が 切れる。 発信：硬貨投入しても 無音で不可。		着信：無音で通話不可 相手は、電話が 切れる。 発信：硬貨投入しても 無音で不可。		着信：通話可能 発信：何回かは可能。 そのうち無音で 不可。 但し、着信があるとまた 発信可能。	
PてれほんF (PT-51)	着信：無音で通話不可 相手は、電話が 切れる。 発信：硬貨投入しても 無音で不可。		着信：無音で通話不可 相手は、電話が 切れる。 発信：硬貨投入しても 無音で不可。		着信：通話可能 発信：通話可能。 但し、発信音が聞こえ るまでに、数秒かかる。	
PてれほんS	着信：無音で通話不可 相手は、電話が 切れる。 発信：無音で不可。 LCD表示 「カハテマヤシ」		着信：無音で通話不可 相手は、電話が 切れる。 発信：無音で不可。 LCD表示 「カハテマヤシ」		着信：通話可能 発信：通話可能。 但し、発信音が聞こえ るまでに、数秒かかる。	

ピンク電話機を接続する場合は、外線の極性（L1プラス、L2マイナス）と、ピンク電話機の赤、白コードを正しく接続してください。（⇒P14、15）

■仕 様

使 用 電 圧	AC100V±10V (50/60Hz)
消 費 電 力	待機時：約6.5W、 最大時：約13W
回 線 数	外線1回線、 内線3回線
接 続 方 法	モジュラジャク、 ネジ止め端子 (内線2のみ)
外 形 寸 法	210 (W) ×150 (D) ×48 (H) mm
質 量	約0.9kg
使 用 環 境	温度：0~40℃、 湿度：35~80%
規 格	VCCI Class B 技術基準適合認定取得 (認定番号：A13-0132005)

保証規定

- 保証期間内に商品が故障した場合は、本規定に従い無償修理致します。
製品に本書を添えてお買い上げ販売店等にご依頼ください。
- 保証期間内でも次の場合は有償となります。
 - 修理依頼時に保証書またはお買い上げ伝票の提示がない。
 - お買い上げ日、お客様名、販売店印の記入がない、及び保証書またはお買い上げ伝票を改変した場合。
 - 商品に添付のユーザーズ・マニュアルの注意事項やご使用上の注意を満足していない場合。
 - 出張修理を要する場合。
 - 本書に故障内容を明記されていない場合。
 - 書面が添付されていても、内容が不明で再現のために調査費用が発生した場合。
 - 火災、地震や台風などの天災、騒乱などの人災、公害や異常電圧などの使用環境による故障および損傷。
 - 保管・運搬による故障および損傷。
 - 接続された他の機器に起因して故障した場合。
 - 弊社保守部門以外で修理、調整、改造をした場合。
 - 取扱い上での不注意、ご使用による故障および損傷。
 - 弊社が認めた以外で使用した場合のトラブル。
- 将来販売されるソフト、ハードとの互換性は保証されませんのでご了承ください。
 - ・ソフトやハードの組み合わせ等の相性で発生するトラブルは故障としませんのでご了承ください。
 - ・修理・交換部品が製造中止や入手困難な場合は、相当品または上位互換品と交換する場合があります。
 - ・本商品を第3者に転売した場合は保証対象外となります。
- 本商品の故障またはその使用で生じた直接的、間接的損害は、弊社は一切の責任を負わないものとします。
- 本保証規定は日本国内で有効です。 This warranty is valid in Japan.
また本商品は、極めて高い信頼性が要求される下記のような用途での使用はできません。
これらの使用は保証対象外となりますので、あらかじめご了承ください。
 - ・軍事目的・原子力設備・交通制御設備・防火、防災設備・燃焼制御設備・航空宇宙機器
 - ・生命維持のための医療機器・その他人命や財産に影響をおよぼす設備。

* 保証期間終了後の有償修理は別途見積となります。

本規定は、以上の保証規定により弊社が無償保証を行うためのもので、これによりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

< 故障内容 >

故障内容を具体的に記載ください。

記載ない場合は返却させていただく場合があります。

★1. 電話機・ファクス・モデム等の型式を記載ください。

★2. 初期不良でしたか？ 使用中の故障でしたか？ : (初期/使用中)

★3. 故障内容を具体的に記載ください。

WEB掲載の取扱説明書のため、保証書欄は削除しました。

<製品に関するお問い合わせ>

富士通コンポーネント株式会社
第二マーケティング部

TEL : 03-5449-7014, FAX : 03-5449-2628

e-mail : promothq@fcl.fujitsu.com

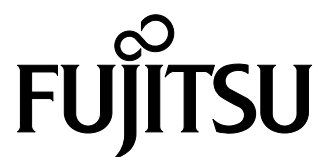
ホームページ : <http://www.fcl.fujitsu.com/>

回線自動切替装置 FT-103-NX

取扱説明書

発行日 2013年10月
発行責任者 富士通コンポーネント株式会社

Printed in Japan



この説明書は再生紙を使用しています。



NC14007-L509-02
131021